平成３１年（２０１９年）１月２２日開会

平成３１年（２０１９年）第１回

茨 木 市 教 育 委 員 会 定 例 会

会　議　録

写

茨 木 市 教 育 委 員 会

◆　平成３１年１月２２日（火）第１回教育委員会定例会を南館６階会議室で開催した。

◆　出席委員

教育長	岡田　祐一
教育長職務代理者	武内　由紀子
委員	片山　正敏
委員	篠永　安秀
委員	堀村　佳奈子

◆　本委員会に出席した者

教育総務部長	乾　克文
教育政策課長	玉谷　圭太
学務課長	小塩　憲司
施設課長	中井　教純
社会教育振興課長	松本　栄子
歴史文化財課長	乾　友範
中央図書館長	川上　成人
学校教育部長	小川　浩一
学校教育推進課長	加藤　拓
学校教育推進課参事	尾﨑　和美
教職員課長	谷　周平
教育センター所長	足立　英幸
こども育成部長	岡　和人
保育幼稚園総務課長	山嵜　剛一

◆　署名委員

教育長職務代理者	武内　由紀子

（ 平成３１年１月２２日（火）、午後２時００分 ）

議事日程 （ 平成３１年第１回茨木市教育委員会定例会 ）

（ 於：市役所南館６階会議室 ）

日程	議案番号	件　　名	摘　要
1		会議時間の決定について	
2		会議録署名委員指名について	
3		会議録の承認について	
4		諸般の報告について	
5	1	平成３１年度全国学力・学習状況調査への参加について	
6	2	茨木市文化財保護審議会委員の委嘱について	
7			
8			
9			
10			
11			

（１４時００分　開会）

岡田教育長

それでは、ただいまから平成３１年第１回茨木市教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、委員会を傍聴したいという申し出がありますので、ここで入室していただきます。

それでは、傍聴者を入室させてください。

（傍聴者入室）

岡田教育長

本日の出席者は５名でありまして、会議は成立いたしております。

なお、本委員会には部長以下、説明員の出席を求めております。

ここで、会議に先立ちまして、ご報告申し上げます。平成３０年１２月３１日付で、京兼教育長職務代理者が教育委員を退任されたことに伴い、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１３条の規定に基づき、新たに平成３１年１月１日付で武内委員を教育長職務代理者に指名させていただきましたので、ご報告申し上げます。

武内委員、よろしくお願いいたします。

それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第１「会議時間の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本日の会議時間は午後４時までといたしたいと思いますが、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、本委員会の会議時間は午後４時までと決定いたします。

日程第２「会議録署名委員指名について」。

本件は、茨木市教育委員会会議規則第１７条の規定により、武内委員をご指名申し上げますので、よろしくお願いいたします。

日程第３「会議録の承認について」を議題といたします。

「平成３０年第１５回茨木市教育委員会定例会会議録（案）」についてお諮りいたします。

異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認め、「平成３０年第１５回茨木市教育委員会定例会会議録（案）」については承認することといたします。

日程第４「諸般の報告」を行います。

乾教育総務部長が報告

岡田教育長

以上の報告について、ご質問はございませんか。

篠永委員

私も参加させていただいた、１４日の成人祭でございますが、私の印象としては、非常に格式のある、華やかで、そして静かな成人祭だったとは思うんですけれども、何か特記すべきような案件があったでしょうか。わかっておりましたら教えていただきたいと思います。

松本社会教育振興課長

成人祭についてです。天候にも恵まれまして、式典、同窓会コーナーともに多くの新成人に来ていただきまして、つつがなく実施をすることができました。特に大きなトラブル等はございませんでした。

直接、成人祭との関係はございませんけれども、午後の部の同窓会コーナーを始めて３０分が経過したころに、立命館大学の１階の男子トイレの火災報知器が鳴りました。ですので、新成人の方々を一旦、場外に誘導しまして、安全が確認できたときには、

ちょうど、もう同窓会コーナーの終了時間でしたので、そのまま状況を説明して、同窓会コーナーを終了させていただいて、新成人には帰っていただいたということがございました。

以上です。

片山委員

１２月２０日の次代を担う若者世代との未来ミーティングは、市長が若者世代の方といろいろお話をされたのだと思いますが、若者世代というのはどういう年齢の方がお集まりになって、どういうテーマと言いますか、どんな内容で話し合いをされたのか、その進め方等、わかりましたら教えていただきたいと思います。

小川学校教育部長

未来ミーティングでございますが、全１４中学校から各２人が参加してのミーティングという形をとりました。テーマといたしましては、今年度については、東京２０２０オリンピックを盛り上げようということで、少し具体的に言いますと、どんなオリンピックになってほしいか、あるいはどうすればオリンピックを盛り上げることができるかということで、生徒たちが交流し、また発表するというような形をとったものでございます。

片山委員

そのオリンピックを盛り上げるという内容ですけれど、茨木市においては、子どもたちからは、オリンピックのためにどういうようなことを取り組もうという意見が出たんですか。

小川学校教育部長

このミーティングの当初に本市のホストタウンでありますオーストラリアのホッケーチームの紹介がありまして、その内容についての部分もあるのかなとは思っていたんですけれども、テーマは先ほど申しましたように、もっと大きな、東京２０２０オリンピックを盛り上げようというテーマになっておりましたので、子どもたちからの意見といたしましては、例えば、総合的な学習の時間に、いろんな国々の調べ学習をし

たらいいんじゃないかというようなことであるとか、あるいは日本代表への応援メッセージと言いますか、そういったものを送るというようなことをしてみたらどうかであるとか、あるいは逆に、せっかく多くの国々から日本に来られるということで、日本の文化をいろんな形で発信したらどうかという意見もございました。その中に、竜王みそも宣伝したらどうかといったような意見を出している子どもたちもおりました。

以上でございます。

片山委員

ありがとうございました。

武内委員

１月１２日の第２土曜科学教室の件で教えてほしいのですが、ＬＥＧＯでプログラミング体験ということで、参加者の子どもたち３０人というのは、どのような学年の子が参加して取り組んだのかということをお聞きしたいのと、子どもたちがどんな反応だったか、簡単だなという感想だったのか、いや、これは難しいなというような感想だったのかをお聞かせいただきたいと思います。それと、これから学校教育にも、このプログラミングを取り入れていくということになってきますが、そのあたりで、先生方が参観に来られるとか、何かちょっと関わられたというようなことはあったのでしょうか。

足立教育センター所長

参加しました子どもの学年についてでございますが、小学校の３年生が１２名、４年が６名、５年が１０名、６年が２名の合計３０名でございました。

反応についてですが、自分がプログラムしたとおりに動いた場合には、本当に大きな歓声が上がっておりました。逆に、動かないときには、えーっというような声も上がりながら、次に、じゃあどうすれば動くかということを、２人ペアで活動していましたので、そのペアの中で話し合いが活発に行われていた様子でした。

それから、これから学校教育でもこのプログラミングを扱っていく中での教員の参加ということでございますが、今回、第２土曜科学教室という形で行いましたが、２学期の間に、このＬＥＧＯの同じマインドストームという機械を内田洋行のほうからお

借りしまして、希望した学校についてでございますが、各校で実施をしております。その中で、市内の４分の１ぐらいの学校は体験をしております。全学年ではありませんが、３年生と５年生などと、各学校で決めた学年の中で実施をしております。今回参加した児童の中にも、学校において体験をして、さらにまたやりたいと参加した児童も会場の中ではいらっしゃいました。

武内委員

わかりました、ありがとうございます。

篠永委員

同じくプログラミング体験のワークショップですけども、こういう催しものの場合、興味のある子どもたちはもちろん来るわけですけども、興味のある子は、どんどんやろうというような感じで、子どもたちのスキルによっては、ちょっとお手上げというような子どもも中にはいて、やはり差がつくことがあるのかもしれないんですけども、そのあたり、興味のあるマジョリティーと興味のない少数派、少数派なのかどうかわかりませんけど、そういう興味のなかった子というのは、どういう様子で、この体験に参加しておられたのかなというところ、把握しておられましたら教えていただけますか。

足立教育センター所長

実際、３０名参加した児童につきましては、どの子も非常に興味を持って取り組んでいて、じっとしている子、あるいは会話を交わしていない子はいない状態でした。先ほど、２学期でいろんな学校でも体験をしたというお話もさせていただきましたが、私も、２校については参観に行きまして、そこでは学級で、５人から７人ぐらいの班で１台の機械を使っていて、今回よりかなり多人数でやっているにも関わらず、その場面でも、どの子も活動には参加をしておりました。実際に機械を使わなくても、カードのようなものを各学校で準備しておりましたので、それを使いながら、いかにそういうカードを並べて、自分でプログラミングをやってみて、実際にそれを機械の中に入れてというふうに、交互にそういうこともやりながら参加していたので、私が今回見た中では、そこに参加しない生徒は１人もいなかったという状態でした。

篠永委員

プログラミングのほうも学校でというお話で進んでいるようで、大概の子どもたちは、興味津々で、どんどん進んでやっていくようなイメージはあるんですけども、やっぱりどの教科もそうですけど、やはり、苦手とか、興味がちょっとないという子どもたちも、一定数いるはずだと予想するんですよね。そういう子どもたちに、どう興味を向けさせるのかというところが、やはりこのプログラミング学習を学校で成功させていく中で１つ重大なところだと思うので、プログラミングの趣向性のない子どもたちに、どう興味をひかせていくかという、そういう魅力あるクラスづくり、学校づくり、授業づくりというところを意識しながら進めていかなければいけないのかなというのが、ちょっと心配するところで、質問させていただきました。

武内委員

同じく、このプログラミングのことなんですけれどもね、プログラミングそのものが目的というか、それを使って、後の学習とか、子どもたちの力につなげていくようなことが必要だと思うんですね。これ自体が目的でなくて、それを使って何かを得ていく、獲得していくというためのプログラミングなのかなと、私は思っているんですけれども、どんなふうに考えたらいいんでしょうか。もし何か教えていただけることがありましたらお願いします。

足立教育センター所長

プログラミングの中で身につける力ということでございますが、今回の作業の中で言いますと、実際にその入力をする前に、これを入力すれば、どういうことが起こるかという、まず予想を立てます。そして、その上で入力をして、その結果がどうなるかということを確認するという作業を通じて、先を読む力であるとか、それから構成する力というのを、このプログラミングの活動をする中で自然に身につけていくものとして構成されています。子どもたちは遊び感覚でやっている部分もあるんですけども、その中で自然にそういう力を身につけるような活動が、プログラミング学習の１つではないかなというふうに感じております。

武内委員

子どもの思考とか、そういうことにつなげられるということが大事だなというふうに思います。先ほど、篠永先生がおっしゃったように、興味のない子というのかな、関心があまり持てないような子どもたちに、どう興味を持たせていくかというのが、随分大事な課題になってくるかなというふうに思いますし、もう１つは、教科学習の中にね、このことがどういうふうに生かされていくのかなというのが、指導者としてはすごく大事にしていかなきゃいけない部分じゃないかなと思うんですけども、そのあたりはどうでしょうか。教えてください。

足立教育センター所長

先ほどの、興味・関心がなかなか持てない子どもたちに対してというところに関しましては、今回はマインドストームという機械を使用して教えましたが、それ以外の教材等についても、教育センターのほうで使えるように、コンピューターの設定等を進めているところです。この教材ではなかなか難しい子も、また別の教材では興味を持つのではないかというところで、そういう形で提供ができればというふうに考えております。

それから、教科学習の中でということでございますが、新しい学習指導要領の中で例示されているものとしましては、算数、理科、それから総合的な学習の中で、こんな形で使えるんではないかという例示がございます。それ以外の場面でも、教科の中では当然、積極的に活用していく、この活動を通じて、情報処理能力も含めて高めていくということも謳われておりますので、そういう例示をされているところをまず取り組んでいきながら、広げていきたいというふうに考えております。

武内委員

ありがとうございます、お願いします。

片山委員

１月７日に、いじめ不登校シンポジウムがされています。いじめ不登校の問題というのは、これまでもずっと長年、大きな課題として続いてきていますし、なかなかこのいじめ不登校の問題の解決というのは、難しい問題です。なかなか、件数も減らない

というような状況もあると思いますけれど、今年、こういうふうにまた、こういうシンポジウムをしていただいて、気持ちも新たにいろいろ取り組んでいただいて、そういう成果の発表とかもあったと思いますけれど、これはどんな内容だったんでしょうか。

加藤学校教育推進課長

１月７日に、小中学校の１年目と２年目の先生を集めて、このシンポジウムをやっております。３年目以上でも、希望者は参加できるということで、数名３年目以上の先生と、管理職の方も来られていました。

中身としては、愛知県のほうの、いじめ事案の第三者委員会の報告書というのが出ていまして、それをずっと読み解きながら、その報告書の中で、教員のいろいろな事案に対する気づきがあるんですけども、その気づきを自分だけのものにしておいて全体で交流できなかったとか、いろんな情報が集約できていなくて、この事案については、悲しい結果になってしまっているんですけども、そういった事案を読み取りながら、参加した教員は若い先生ですので、いろんな事案に対して疑問に思ったことなんかを、どんどん出していくことが、学校が組織的に、いじめについてみんなで考えていくことになるというようなことを確認して、若いから、経験が浅いからといって遠慮せずに、どんどん自分の気づきとか、子どもの変化とかを出し合って、交流していきましょうというまとめでした。

講師としては、本市のスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーをしていただいています野尻先生に講師をしていただいて、そのような流れで行いました。

片山委員

対象の先生が、採用１、２年目と、非常に若い方で、そういう問題把握が若干遅れる可能性もありますので、こういう先生方を重点にですね、いろいろと、そういう組織的対応の必要性を訴えていただいたと、非常にいい取組だったというふうに思います。これからも、若手もそうなんですが、マンネリになる可能性もありますのでね、一定年限が経った先生方も、心新たにして、こういう問題に取り組んでいただけるように、またそういう機会を多く設けていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

武内委員

１２月１５日の子どもと保護者のための読み聞かせ講座「おやこで絵本とあそぼう！」ですけれども、事前申し込みで先着２０組という定員があったんですが、参加者が５０人もいらっしゃったということで、すごく関心がある方が多いのかなというふうに思いました。今、家庭教育の大切さみたいなことがすごく注目されているんですけれども、こういうふうにたくさんの方に参加してもらって、本当に０歳から３歳までというのが教育の、子どもの成長にとって大きな力となるというふうなことを考えたら、いい取組だなというふうに思います。で、これは水尾図書館でされたということなんですけれども、いろんな館で何回か予定されていて、家庭教育に対するちょっと揺さぶりみたいなことにつなげるようなことを考えておられるんでしょうか。

川上中央図書館長

子ども読書活動推進では、さまざまな事業をさせていただいておりますが、今回の「おやこで絵本とあそぼう！」につきましては、１０月１２日、庄栄図書館で開催をいたしまして、今回、水尾図書館が２回目でございます。この事業については、２館での開催をさせていただきました。

武内委員

読書活動のつながりということというふうに今、お伺いして、あ、そうだったな、そうなんだなというふうなことを思ったんですけど、それと同時に、やはりさっきもお話しさせてもらったように、やはり親が子どもを見つめるというんですか、子どもと一緒に何かをするという場としてね、設定するのは大変労力が要るかとは思いますけれども、ぜひたくさんの機会をつくっていただけたらありがたいなというふうに思いますので、お願いします。

堀村委員

すみません、また成人祭に戻ってしまうんですけれども、今年は晴れて、すごくいいお天気だったので、去年よりも出席者が多かったんじゃないかなと思うんですけれども、１部のほうは、席を見ていると結構満席に近い状態だったんですが、全員、会場

には入られたんでしょうか。

松本社会教育振興課長

成人祭についてです。新成人の対象なんですけれども、今年度は、午前の部で１，５１６人、午後の部で１，５４０人、計３，０５６人の方が新成人の対象となっています。参加率のほうが６８．３％で、参加人数が、事務報告で報告させていただいている２，０８５人になります。立命館大学のグランドホールですけれども、茨木市の吹奏楽団のものとか来賓者の席等を含めますと、午前、午後とも新成人は８９０人ぐらいが座れるような形で想定をしておりますので、来られた方が全員、中に入られたというのではなくて、場外のほうでお話をされている新成人でありましたり、また昨年は雨ということもあって、中に入られたけれども式典が見られないというようなこともありましたので、今年は１階に中継会場も設けまして、そちらのほうでも式典の様子を見ていただけるような工夫等をさせていただいております。

堀村委員

わかりました、ありがとうございます。

岡田教育長

それでは、以上をもちまして、諸般の報告を終わります。

日程第５　議案第１号「平成３１年度全国学力・学習状況調査への参加について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

小川学校教育部長

議案第１号につきまして、趣旨説明をいたします。

本件は、平成３１年４月１８日に実施される平成３１年度全国学力・学習状況調査について、本市教育委員会及び小・中学校の参加を決定するものであります。

平成３０年度の実施要領からの主な変更といたしましては、以下の２点になっております。

１点目として、実施要領１ページから２ページにかけての「４．調査事項」に示され

ておりますように、教科に関する調査に国語、算数・数学に加えて、中学校で英語が実施されることであります。

２点目は、実施要領２ページの「４．調査事項」の（１）ア（ウ）に示されておりますように、知識・技能を問う問題（Ａ問題）と活用する力を問う問題（Ｂ問題）を一体的に問うことになっております。それに伴い、教科に関する調査の調査時間が、小学校は国語・算数それぞれ４５分、中学校は国語・数学それぞれ５０分に変更されております。

以上２点が変更になっておりますが、本市教育委員会といたしましては、茨木っ子グローイングアッププランに基づく取組の成果と課題を検証するため、全国学力・学習状況調査を引き続き活用していきたいと考えており、来年度につきましても、別紙「平成３１年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」に基づき全小・中学校が調査に参加することをご提案申し上げます。

よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

岡田教育長

事務局の説明は終わりました。これより、質疑を行います。

篠永委員

今年４月１８日に実施されるということですが、この日にちで休校になっているというような小学校、中学校というのはございますでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

次年度の４月１８日に創立記念日などが重なっている学校はありませんので、全部の学校で実施できます。

堀村委員

中学校で、英語の「話すこと」に関する問題が初めて実施されるということなんですけれども、茨木市でも今年実施されるということなんでしょうか。実施される場合は、どのような方式でなされるのか、教えていただければと思います。

尾﨑学校教育推進課参事

中学校のほうでは、英語が実施されるのは次年度が初めてになります。「書くこと」も含めて、全て初めての実施になるんですけれども、「話すこと」の調査に関しては、パソコンに教材のデータを入れまして、そこからそのデータに基づいて、ヘッドセットで聞いて、それに答えて、答えを録音したものをＵＳＢに保存して、それを採点するところに送るというような流れになっています。筆記のものと話すことと、２種類のテストが英語では行われます。

篠永委員

「話すこと」では、ヘッドセットで答えられるということで、１ページ目の「３．調査の対象」なんですが、右耳、左耳それぞれの平均聴力レベルが６０デシベル以上の生徒は対象としないことができるということで、片方が全く聞こえない、で、片方はもうほぼ健常者レベルという場合は、どうなるんでしょうか。これは、どちらかが聞こえたらいいという表現なんですかね。

尾﨑学校推進課参事

６０デシベル以上の生徒は対象としないこととすることができるということですので、支援学級の子どもさんなどは、やはりほかの教科でも、実際に学習できているかどうかなど、本人と保護者の意向とあわせて、参加することも相談していますので、それと同様に、片方でもしっかりと聞き取ることができるので、ぜひ参加したいということであれば、参加することができるようにしたいとは思っています。どちらか、あるいは両方がない場合は参加しなくてもいいということですので、参加については、生徒の実態に合わせて検討したいと思います。対象の子どもさんがいるかどうかは、今のところ確認がとれていません。

篠永委員

ちょっとわかりにくい表現なので、ご質問させていただきました。あと、実施要領の内容を、かちっと把握していただいて、実施される全校の先生方に、こういうケースはよくて、こういうケースは相談してというふうなことを、学校間で差が出ないようにお願いしたいなとは思います。

というのは、結構、外傷で片方だけ耳が聞こえなくなってとか、何らかの疾患で片方だけ聴力がないんだけども、平素の会話であるとか、お話などは、片方が聞こえているのでまったく問題ないという方は、実はそう珍しくはなくって、その中でちょっと不公平さが出ると問題になりますし、案外、こういうケースはあるかと思いますので、各学校には実施前に共通の条件を共有してもらえるようにしておかないと、ちょっと不公平感が出る可能性があるかなと思うので、私のほうからちょっとお願いしたいなと思います。

片山委員

同じく英語のスピーキングとヒアリングの話なんですけど、やり方については、この要領以外にもっと詳しい何か説明が多分あるんだと思いますけれど、実際、そういうパソコン教室でやる場合に、隣の人との影響がないのかどうかとか、あるいは、例えば質問を繰り返して聞くことができるのかとか、やり直しがきくのかとかね、その方法についてはちょっと、まだ想像がつかないんですが、どんなふうになるか、もう既に把握しておられるんでしょうか。大学入試とかでは、一回聞いたきりで、もうすぐに答えを出さないといけないというような感じですよね。

尾﨑学校推進課参事

今年度、大阪府の中でも１校だけ、予備調査ということで実施した学校がありまして、それを公開していただきましたので、担当の指導主事が見学に行っております。

パソコン教室も、並んでいる状態でパソコンがあって、ヘッドセットをしますが、やはり周りの声が全く聞こえないかというと、そうではありませんので、気になる子もいるかもしれないんですけれども、用意スタートという形でスタートをしたら、大体第１問は同じような感じで聞こえてくるので、隣の子の答えを聞いて答えることもある程度、可能かもしれません。ただ、最初の問題は誰でも答えやすいような、画面に、この子は何をしている場面でしょうかという映像が出て、彼女は走っていますと答えるような問題から始まります。それがたとえ聞こえていたとしても、第２問目からは、やはり自分で考えて答えなければ答えられませんので、隣の子のを聞いて答えると、何秒間の間に言いましょうという時間制限がありますので、隣の子のを聞いた後に答えるということができなくなってきます。

それと同様に、問題も何回も聞き直すということは、できません。５分ぐらいの実施の内容なんですけれども、一旦音声が流れたら、その間にやりとりをして終わるという形になります。ただ、機械の不具合などでそのデータが作動しなくなった場合などは、後ほど時間を見つけて実施する、そういうやり直しは可能だということになっております。

片山委員

で、この英語は、これから毎回入ってくるんですか。

尾﨑学校教育推進課参事

一応、今の予定では、理科と同じように３年に１度です。今年度は理科がありましたが、３年に１度理科を実施して、それで３年に１度英語をという予定になっています。

片山委員

はい、ありがとうございます。

武内委員

今のお話を聞いていて、ちょっとイメージがよくつかめないんですけど、最初、映像が出てくるっていうのは、その１問だけですか。それとあと、その文例というか問題例みたいなのは、例えば、こういう問題というふうに、既に公表されているんでしょうか。

で、答えるとしたら、単語を並べるレベルで答えられることなのか、それともある程度、自分の考えを入れながら答えるような問題なのかというあたりはどうなんでしょう。その評価の仕方というか、それでオーケーですみたいなのがね、難しいかなと思います。大体、型どおりのことを聞いて、型どおりのことを答えるような問題になるのかなとも思いますし。どのような感じで、今どこまで示されているのか教えてください。

尾﨑学校教育推進課参事

今年の予備調査でいうと、問題は、全てパソコンの画面に映像とかが出るようになっ

ています。１問目はそういう映像が出て、それに答える、２問目はＡさんとＢさんが英語で会話をしていることに対して、それについて答える、３問目は外国の方に自分の学校のことを紹介しましょうというような問題で、１分間ぐらい考える時間が用意されていて、その考える時間の後、３０秒以内で答えましょうとか、そういう時間制限の中で進むというようなことです。自分でその場で即興的に考えて、相手に伝えるということが求められています。今は、外国語では、やはり基本のきちんとした正しい文で答えるというよりは、相手に伝えるということが重視されていて、相手に伝わるかどうかが、まず得点ということになるので、そういう評価になって返ってくるのではないかなというふうに思います。

今こういうふうにお話しできたのも、予備調査の問題は公開されています。学校のほうにも、子どもたちにイメージを持ってもらうために、使ってもらえるようにデータの提供は行っています。

篠永委員

なかなか、初めての試みなんで、まだ難しいところもあるかと思うんですけど、その「話すこと」の評価というのは、聞いて、答えられたら満点なんですか。それとも、お話しになって、文としてより正しいかというのも加点の対象になるのでしょうか。多分、英語で返すんだと思うので、その流暢さというのか、発音とかイントネーションとかって、そういうところも点数の対象になることになっているんでしょうか、ちょっとわかれば教えてください。答えとして理解していなくても、とにかく何か言っておけばいいという感覚なんでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

初めてのことですので、ちょっと正確なことはわからないんですけれども、ほかのテストに関しても、解答類型ということで、いろんな解答の仕方があって、二重丸の解答、丸の解答、で、点数にはならない惜しい解答とか、間違えやすい解答というふうに分類されてきますので、同じように丸の解答と、さらに二重丸の解答みたいな形では示されるのではないかなと思います。どちらにしても、正答数という意味では、丸でも二重丸でも正答になりますので、そのような形で返ってくるのではないかなというふうに考えています。

篠永委員

現段階でわかっていることを教えていただいて、よくわかりました。「話すこと」なんで、話せないとだめということの観点から、コミュニケーションとどうバランスをとるかなんですけど、例えば頭脳明晰で、言葉を失っている子ども、答えがわかっているけど話せないだけで、じゃあ手話で返すとか、筆記で返せたりしたら、そもそも加点にならないというのはちょっと不公平なんじゃないかという問題提起をされる保護者さんがいらっしゃるかもしれないし、ちょっと問題はあるかと思います。「話すこと」ということですので、話せないとだめというくくりにはなるんでしょうけども、ちょっと何か、私の中では、疑問が幾つか頭の中に浮かんでいるところです。よくわかりました、ちょっと私の私見を述べさせていただきました。以上です。

武内委員

こう言えたから二重丸とか、これはちょっと惜しいなとか、そういう評価の仕方があるのかなというふうに思うんですけど、やはりどれが正しい答えで、どれが間違っているのかということももちろんですけれども、初めてこの取組がなされるということですので、点数がどうとか、評価がよかった悪かったとかいうよりも、今後の英語教育、英語の授業にどんなふうに生かしていくかということのたたき台みたいな形で、このテストがね、生かされていったらいいのかなというふうに思います。

片山委員

この結果の評価なんですが、英語にも、「話すこと」以外にもいろんなことが求められておりますけれど、この「話すこと」のウエイトというのは、どのぐらい置かれているんですか。それで、この結果を今後に生かすとすれば、例えば、話す上で、文法上誤りのある文章で話されている場合もあるでしょうし、ここからいろんな問題点を分析されるんでしょうけれど、「話すこと」を中心に、今後の英語の時間にどういうふうに活用していくのか、何かそういう将来のカリキュラム上の問題も出てくるんでしょうか。それはどんなふうに考えておられますか。

尾﨑学校教育推進課参事

ウエイトというところなんですけれども、今回、「話すこと」のこの調査は、本市ではパソコンの環境が整っておりますので実施できるんですけれども、なかなか環境が整っていない市町村の学校では実施できないところもありますので、結果については、一応参考値として公表するということが示されています。「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の合計を集計して、これまでの都道府県別の結果などに入ってくるのではないかなというようには思っています。ただ、この「話すこと」については、今までは、どちらかというと覚えたことを発表するような「話すこと」が中心だったんですけれども、そうではなくて、やはり実際の生活の場面で使えるようなやりとりということを重視した「話すこと」になっていて、今回のテストも、実際、その場で考えて、子どもたちが話せるかどうかというところを評価できることになりますので、授業の中で、そういう場面をたくさん増やすでありますとか、今、ＮＥＴを入れていますので、ＮＥＴを活用して、やはりその場での会話が何往復かできるとか、そういうことも授業の中では考えていきたいなというふうに思っています。

片山委員

今後の活用ということで、コミュニケーションができる能力、そういうのを培っていこうということで、既に茨木では英語シャワーデイとか、英語で遊ぼうデイとかで、ＮＥＴの方といろいろ会話をされていますね。そういうことの取組の影響は、このテストの結果にも出てくるのかなと思いますが、あまり結果として出てこなければ、もっと、ＮＥＴなどの外国の方との時間を増やしていくとか充実していく必要もあるかなと感じますし、そのあたりを十分に使っていただければなというふうに思います。よろしくお願いします。

武内委員

この実施要項をよく読めば、わかることなのかもしれないんですけどもね、端的に言えば、英語の中で「聞く」、「話す」ですか、そのことを今回の学力テストの中に入れるということの根本の意味というか、なぜそれを入れようとしているのかというあたりの、文科省なり、国なりの考えというのは、どんなふうに理解したらいいんでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

英語を入れることに関しては、小学校でも教科化されますように、国際社会の中で必要な言語ということで、その力をつける、力がついているかを測るために、入れていくことになっていると考えています。「話すこと」なども入れているのは、やはり、新しい学習指導要領でも、４技能をしっかりとバランスよく身につけるということが求められていますので、ただ「書くこと」ができたらいいとか、そういうことではなくて、十分に使える力をバランスよく身につけるということではないかと理解しています。

武内委員

使える英語にしていこうということが一番の目的と、そうとらえていいんでしょうね。多分、今までは、知識としてはわかっていて、書いたり読んだりはできるけれども、話すことになるとできなくなる、できない部分が多いというふうなことがあって、その改善というかね、そのあたりが必要になってくるんだと理解したらいいんでしょうね。はい、わかりました。

岡田教育長

これ、テストをするのに時間数は足りるんですか。その１日でやり切らないといけないということだけど、クラスが多くても大丈夫なんですか。

尾﨑学校教育推進課参事

資料に時間割りの例がついているかと思うんですけれども、１１ページにありますように、１時間目から３時間目までで筆記のテストは、国語、数学、英語というふうになります。そして、生徒質問紙調査の時間もあるんですが、「話すこと」は、中身は５分程度でできるものなんですが、部屋の入れかえとか準備に、１クラス、１５分ぐらいかかるということを想定されていますので、１時間に３クラスは実施できるという計算になっています。６クラスまでの学校は５時間目と６時間目に、基本６クラスを実施してくださいというふうに指定されています。７クラス、８クラス、それ以上あるところは４時間目の時間を使って行うということで、本市も３コマあれば全部のクラスが実施できるという計算になっております。

武内委員

今の話でね、例えば１組、２組、３組が５時間目にしますよね。それで、４組、５組、６組が６時間目にするとなるとね、同じ課題が出されるんですよね。そのあたりで何か、先に受けた子がちょっと内容を伝えたりとか、そんなふうなこともなきにしもあらずかなと、今ふと思ったんですけどね。そのあたりは注意が必要ですね。

尾﨑学校教育推進課参事

そのあたりは、各校でテストを受ける際のルールといいますか、やはりそういうことは普段の授業でもあり得ることですので、問題を言うことが相手にとってもいいかどうか考えるような先生からの声かけもあるというふうに考えております。

武内委員

わかりました。

岡田教育長

これ、自分が答えたことに関してフィードバックはされるんですか。緊張しているし、答えは吹き込んでいるから、子どもたちは忘れていると思うんですが。何て答えたかわからないけど、返ってきたら、二重丸とか丸がついていたという形になるんですか。

尾﨑学校教育推進課参事

丸かバツがついて返ってきます。

岡田教育長

自分が答えたことがわからない中で、丸とかバツがついている可能性もあるということですか。

武内委員

何で丸なのか、何でバツなのかがわかりませんね。

岡田教育長

事務局に言っても仕方がないですね。評価というか、丸とかバツはつくけど、点数には入れないと。そうですね。

尾﨑学校教育推進課参事

今までも、解答用紙自体は返ってきていなくて、個人への結果の通知は、その問題に対して、その子が丸だったか、バツだったかという結果しか返ってきませんので、英語も同じような形になると思います。全国に平均正答数などを公表される中に、「話すこと」のものは加えないで、全国の平均の参考値というような感じで公表するということになっていますので、やっている学校とか、やっていない学校とか出てくることを考えて、そこは入れずに、その３つの力で、英語の調査の結果は見るということになっています。

岡田教育長

なかなかすっきりしないところもありましたけど。最初ですからね。今、英語だけ出ていましたけど、ほかに全般に関して、それ以外でも特にないですか。

特にないということで、お諮りいたします。

質疑を打ち切りましても、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、質疑を打ち切ります。

ただいまより、各委員の賛否及び意見を求めます。

（各委員「原案賛成」の発言あり）

岡田教育長

各委員のご意見は原案に対して賛成であります。

本件は原案のとおり、決することに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。よって、議案第１号は原案のとおり、可決されました。

日程第６　議案第２号「茨木市文化財保護審議会委員の委嘱について」を議題といたします。

武内委員

本件は人事案件ですので、非公開でお願いします。

岡田教育長

ただいま、武内委員から非公開の動議が提出されましたが、本件を非公開とすることに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。本件については、非公開といたします。

関係者以外の退室をお願いいたします。傍聴者の退室をお願いいたします。

（関係者以外・傍聴者退室）

＜非公開＞

岡田教育長

ただいまより各委員の賛否及び意見を求めます。

（各委員「原案賛成」の発言あり）

岡田教育長

各委員のご意見は原案に対して賛成であります。

本件は原案のとおり決することに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって、議案第２号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしました。

平成３１年第１回茨木市教育委員会定例会を閉会いたします。どうもご苦労さまでした。

（１５時１０分　閉会）

以上会議の顛末を記載し、茨木市教育委員会会議規則第１７条によりここに署名する。

平成３１年１月２２日

茨　木　市　教　育　委　員　会

教　育　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署 名 委 員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

平成３１年第１回茨木市教育委員会定例会事務報告

平成30年12月15日～平成31年1月14日

月　　日	行　　事　　名	場　　所	出　席　者	担 当 課
12月15日（土）	子どもと保護者のための読み聞かせ講座 「おやこで絵本とあそぼう！」 （参加者：50人）	水尾図書館	関係職員	中央図書館
12月20日（木）	次代を担う若者世代との未来ミーティング （参加者：62人）	市役所南館中会議室	市長 関係職員	学校教育推進課
12月22日（土）	子ども向け工作等行事 （参加者：39人）	水尾図書館	関係職員	中央図書館
1月7日（月）	いじめ不登校シンポジウム （参加者：161人）	市役所南館大会議室	教育長 関係職員	学校教育推進課
1月12日（土）	第52回こども会親善百人一首カルタ競技大会 （参加チーム：24こども会 36チーム）	上中条青少年センター	教育長 関係職員	社会教育振興課
12月15日（土） ～ 1月12日（土）	映画会 （開催回数：4 回　参加者：延べ213人）	中央図書館	関係職員	中央図書館
1月12日（土）	第２土曜科学教室 　ＬＥＧＯでプログラミング体験 （参加者：30人）	教育センター	関係職員	教育センター
12月15日（土） ～ 1月13日（日）	おはなし会 （開催回数：27 回　参加者：延べ580人）	中央図書館ほか	関係職員	中央図書館
1月14日（月・祝）	第71回成人祭 （新成人入場者：2,085人）	立命館いばらきフューチャープラザ	市長 教育長 教育委員 関係職員	社会教育振興課